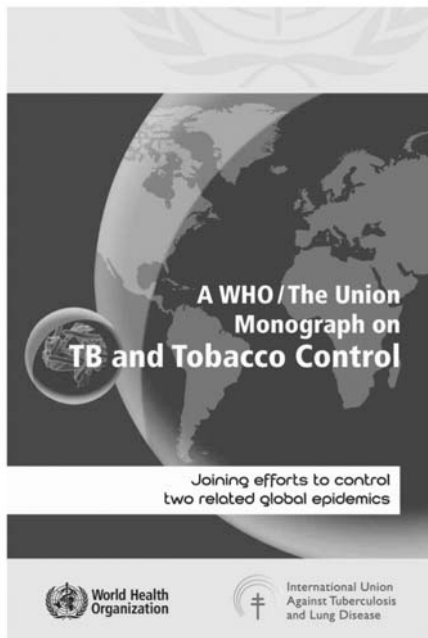


喫煙と結核



結核予防会顧問
島尾 忠男

喫煙と健康については、がんなどいろいろな疾病が喫煙の影響を受けて、発生や死亡が多くなることが示され、喫煙者自身だけでなく、周囲に喫煙者がいることによる受動喫煙の影響まで明らかにされてきている。しかし、喫煙と感染症である結核との関係については、それほどの影響がないと考えられていた。WHOは国際結核肺疾患予防連合（IUATLD）と共同で、喫煙と結核の関連について世界中の文献を集めて総合的な検討を行い、その成果が発表されたので概要を紹介する。



(http://whqlibdoc.who.int/publications/2007/9789241596220_eng.pdf)

喫煙と結核の感染、発病や再発、治療成績、結核死亡率との関連について研究し、英語で発表された論文1,863の中から、非喫煙者と比べた喫煙者あるいは受動喫煙者のリスクを、信頼区間を示して掲載してある論文192を選び、その全文を3人の研究者が独立して検討し、最終的に37論文、50の研究が評価に耐えうるものとして残された。

結核感染と喫煙

採用された研究は8、その内症例・対照研究が1、その他は断面調査で、オッズ比は1.03~3.2と喫煙者に結核感染が多く見られており、感染を厳格に判断したと思われる5研究の内、1研究では受動喫煙の感染に対する影響も見られている。

発病、再発と喫煙

採用された24研究中22が、発病または再発に対する喫煙の影響を認めており、自分の喫煙の影響を研究した19研究では、オッズ比は1.012~6.26、受動喫煙の影響を見た4研究では、オッズ比は1.6~9.3であった。煙と結核発病の関係を分析し、残りの12研究は発病要因を検討する中に喫煙を含めている。追跡調査が5、症例・対照研究が15、断面調査が4であった。

患者管理・治療成績と喫煙

喫煙と患者発見の遅れ、治療からの脱落、菌の陰性化の早さ、発見時の病状の重さ、薬剤耐性など、患者管理や治療成績との関連を分析した研究は11、その内喫煙の影響が見られたのは7であった。

治療中、治療終了後の死亡と喫煙

香港での追跡調査で、女性では喫煙の影響は見られないが、男性ではオッズ比4.66。スペインでの症例・対照研究では治療中の死亡がわずかではあるが喫煙群に有意に高かった。

結核死亡と喫煙

5研究のすべてで、喫煙者のほうが結核で死亡するリスクが高くなっており、オッズ比は最低が1.02、最高は6.62であった。

研究の進め方を評価し、精度の高いものとその他に分け、最終的に得られた結論の確かさを評価しているが、結核発病と喫煙については、精度の高い8研究がすべて喫煙の影響を肯定しており、強い証拠が得られたとしている。再発についても、精度の高い2研究が影響を示し、ほぼ確実な証拠ありとしている。結核感染と喫煙、結核死亡と喫煙については精度の高い研究がそれぞれ5研究、2研究あり、いずれも影響を肯定しているが、感染についてはそれを判断する方法、死亡については結核と他の死因を判別する難しさなど、研究の進め方に限界があり、ある程度の証拠が得られたとしており、治療や患者管理と関連した成績と喫煙との関連については、今後の研究課題としている。

このように、少なくとも発病と再発に対する喫煙の悪影響は確認できたので、WHOは今後結核対策部とたばこ対策部が共同で、結核とたばこ病という二つの流行に取り組むことになっている。